

6. 未知の感染症への対応を含めた感染症に強靱な社会づくり

吉田高校

新型コロナウイルスの世界的流行を経験した私たちは、感染症が社会に与える影響の大きさを痛感しました。今後も、未知の感染症が出現する可能性は否定できません。そうした脅威に備えるためには、平時の医療体制の強化、情報共有の仕組みづくり、そして正しい知識に基づいた私たちの行動が重要です。また、ワクチンや治療薬の研究・開発を進めるとともに、国際的な連携がなければいけないと感じます。私たち一人ひとりが感染症について学び理解したうえで、科学的根拠に基づいた判断をすることが、強靱な社会づくりの第一歩です。今後起こる未来の感染症危機に備え、今、行動を始めることが求められています。さらに、行政や医療機関だけでなく、地域や企業・教育機関など、あらゆる立場の人々が協力し合うべきです。例えば、学校教育においては、感染症の基礎知識や公衆衛生の大切さを子どもたちに伝えることで、危機に備える柱としています。災害と同様、感染症も「いつか来る危機」として備え、予測不能な状況にも対応できる柔軟性と連携力を高めていくことが大切だと思います。



7. 性別を超えてみんなが活躍できる山梨県をつくろう
甲府商業高校

山梨県のジェンダーギャップ指数は2年連続、全国最下位です。これは県内に住む女性が男女間の不平等を感じていることを指しています。その改善のために県は子育て中の女性が働ける環境の整備や女性管理職の増加、ライフワークバランスを重視した企業の増加を推進する制度を構築していくべきだと思います。また、そのためにも山梨県は女性議員が少ないという問題も改善する必要があります。女性の議員が少ないと女性の意見が政策に反映されにくくなり、女性が活躍できる社会が実現できないと考えるからです。そのためにも、ジェンダー・クォータ制の導入を提言します。女性議員の比率を上げることで、政治に女性目線での意見が取り入れることができるため、女性も男性と同じように活躍できる社会に近づいていくと思います。そして、男女が協力して子育てしながら働くことや女性が管理職や議員になることが当たり前になり、山梨県のジェンダーギャップ指数も1に近づくとと思います。



8. アンコンシャス・バイアスの解消にむけて、若者世代ができること
甲斐清和高校

私たちは普段、無意識のうちに「男だから」「女だから」といった固定観念にとらわれてしまうことがあります。こうした偏見は、例えば友だちを選ぶときの接し方や、自分に合った将来の進路を考えるときにも、知らず知らずのうちに影響を及ぼしているかもしれません。だからこそ、学校教育の現場では、「多様性」について学ぶ機会をもっと充実させる必要があります。具体的にアンコンシャス・バイアス化、価値観の違いについてディスカッションする時間を設けたり、ワークショップやロールプレイングなど体験的な学びを通じて、自分自身が持つ思い込みや偏見に気づく場をつくることが大切です。また、先生や家庭の大人も、自分の無意識の偏見に気づき、それをなくす努力を続けてほしいと思います。誰もが自分らしくいきいきと生きられる社会をつくっていくためには、私たち一人ひとりが考え方を見直し、行動を変えていく姿勢が求められています。そうした意識の積み重ねこそが、「多様性」を尊重し合える社会を実現する第一歩になるのではないのでしょうか。



9. 県内高校への「雷レーダー」の一斉設置について 都留高校

4月10日、奈良市にある学校のグラウンドに雷が落ち、サッカー一部の活動をしていた生徒6人が病院に搬送されたという事故が起きました。日本サッカー協会が定めているガイドラインでは、落雷の危険や兆候が確認された場合は公式戦や練習に関わらず活動を中止することなどが示されています。しかし、これらは最終的には顧問等の人間の判断に委ねられているため、対応には差が生じてしまいかねません。全国では学校での落雷事故を防ぐため、独自に「雷レーダー」などの観測機器を設置する学校があります。雷を検知すると、職員室の壁に設置された警報ランプが点滅して、アラート音が鳴る仕組みになっています。教員は校内放送を使って建物内への避難を呼びかけることになっています。グラウンドに設置された赤色回転灯も自動で点灯し、すぐに活動を中止することにもなっているようです。このような屋外にいる一教師、あるいは生徒の主観的な判断に寄らない、一律の科学的根拠に従った判断・行動が促されるよう、県内高校への「雷レーダー」の一斉設置を提案いたします。



10. 快適な学校設備に向けて ～学校施設へのエアコン整備について～
あけぼの支援学校

私の学校の体育館には、エアコンがありません。全校で集まる行事は、体育館で行ってきましたが、今年の夏は暑すぎて、体育館が使えません。扇風機と冷風機はありますが、それだけでは涼しくなりません。そのため、全校行事は、エアコンのある部屋に分かれて、リモートで行っています。私の学校は、肢体不自由のある児童生徒がいます。熱がこもりやすかったり、医療的ケアが必要だったり、暑さで体調を崩しやすかったりする児童生徒もいます。

暑さを心配せず、全校で集まれるように、体育館にエアコンを付けて欲しいです。私の学校のように、エアコンがなくて困っている学校は、あると思います。学校のエアコン設備を整えることを提唱します。

